

News Letter

Number 17

日本獣医解剖学会報

March 25th, 2001

獣医解剖学は、なにを守り なにを変えるのか？

会長 林 良博

獣医解剖学という分野名称は、学生時代から家畜解剖に親しんできた人間として、なかなか馴染めないものの一つであったが、いつのまにかそれほど違和感がなくなってしまっていることに気が付き、私もそうとういい加減な人間だと改めて自覚している今日この頃である。しかしまったく分野の異なる研究者、とくに論理的にものごとを考える性癖のある分野の研究者にとって、獣医解剖学という分野名称はかなり違和感を覚えるものらしい。「獣医さんを解剖するのですか」と、本当にそう思ってもいないのに私に聞いたりする。

そんな意地悪な質問に対する私の答えは単純で、「動物解剖学では広すぎるし、哺乳類解剖学では狭すぎる場合と広すぎる場合がある。獣医学が主として対象にしている動物を対象とした解剖学なので獣医解剖学と名乗っているが、もっと適切な名称があったら教えてください」というものである。

過去 10 年間、改革という言葉は何度聞いたことか。それこそ耳にタコができるほど聞いたし、私も言ってきたように思う。今日も文部科学省に「なんとか獣医学が農学の先鞭をきって教育改革の努力を続けることに応えてほしい」旨、国立大学農学系学部長会議の会長としての立場からお願いしてきた。しかし本心をいえば、私は「改革」という言葉が嫌いである。ひとつひとつの改革の積み重ねの結果、私たちが得たものは本当に「改革」されたものであろうか。変わったことは事実としても、巨視的にみた場合、改善ではなく改悪ではなかったのだろうか。とくに行政改革の立場から進められようとしている大学の法人化は、あまり派手ではないが学術の世界における「文化大革命」というのに相応しい出来事であると私は思う。

所得が高いだけで高等教育を国が支えるという自覚に乏しい国、そんな日本で国立大学の法人化を行おうとする政府と、それを紅衛兵のように支えるマスコミ。そもそも日本は、650 大学のうち 99 大学のみが国立大学であり、先進国の中で極めて特異な国といえる。欧州の多くの国においては伝統的に高等教育は国が行っており、私学が多いと誤解されているアメリカでも大学は公的機関が中心である。

以下に大崎 仁氏（国立学校財務センター所長）の講演（学士会会報に掲載）から引用する。「アメリカでは、かつては確かに私学が中心でしたが、現時点では、学生数で申しますと四年制大学の 7 割が州立大学であり、三割が私立大学です。短大まで含めればもっと州立の比率が高くなる。ちょうど日本とは逆の状況です。「イギリスには、大学を民営と考える感覚は全くありません。イギリスの人に聞くと、私立大学というのは、バッキンガム大学 1 校だけであるという答えが、必ず返ってまいります。「ドイツでは、私立大学が学生の 2% 程度でし、フランスはそもそも私立機関には学位授与権を与えていませんから、正式には私立大学がないということになります」。

獣医学教育に限って言えば、日本では、1,000 人の学生中 335 人が国立大学で教育されており、公立である大阪府立大学を含めても 375 人と全体の 4 割にも満たない。一方、欧州ではほぼ 100%、アメリカでもタフツ大学など 1, 2 校を除く 90% 以上の学生が国公立大学で教育されている。すなわち欧米には、獣医学のように多大の経費を要する高等教育は、国あるいは公が支えるという国民的合意があるのに対し、日本では残念ながらそうではない。

欧米と日本を比較する場合、こうした差異を考慮して慎重に行うべきである。例えば教育の欧米化を求めると、何を差し置いてもまず私立大学への国庫補助の増額を国に求めることになるだろう。しかし現実には逆の方向を向いている。私たちは現実の流れの中で、本当に獣医解剖

学にとって良いことをやろうとしているのか、それとも結果として改悪になるかもしれないことに精を出してやっているのか、見極める必要があるのではないかと。

獣医解剖学はなにを守り、なにを変えようとしているのか。21 世紀に入って、まずそのことをじっくりと考えよう。（平成 13 年 3 月 21 日記）

◇ 第 130 回 日本獣医学会 ◇

(2001 年 4 月 2 日～4 日) 会場：東京農工大学・ルミエール府中

日本獣医解剖学シンポジウム I 4 月 2 日 (月) 第 IX 会場
「嗅覚器」 A-S I 1-7 (14:00~17:40)

座長：谷口和之 (岩手大), 斉藤 徹 (日獣大)

- A-S I1 嗅覚器および一次嗅覚中枢の構造と機能 谷口和之 (岩手大)
- A-S I2 鋤鼻神経細胞の神経発生 長田俊哉 (東工大)
- A-S I3 鋤鼻系におけるシナプス可塑性の形態学 市川真澄 (都神経研)
- A-S I4 視床下部機能に対するフェロモンの修飾作用 森 裕司 (東大)
- A-S I5 嗅細胞のニオイ応答 外崎肇一 (岐阜大)
- A-S I6 嗅覚と生殖行動 斉藤 徹 (日獣大)
- A-S I7 嗅覚記憶とサケの母川回帰 佐藤真彦 (横浜市大)

シンポジウム II 「教育改革」

4 月 2 日 (月) 第 IX 会場

A-S II (17:50~18:50) 座長：林 良博 (東大)
A-S II 1 医学教育改革の試み・兵庫医大での一例 関 真 (兵庫医大)

★サテライトフォーラム★

4 月 4 日 (水) 13:00~15:00 第 IX 会場 座長：木村順平 (日大)
A-SF 生物系デジタル画像データの有効的活用法 尾野道男 (横浜市大)

* 一般講演 * 4 月 2 日 (月) 第 IX 会場

演題番号 A-1-14 (9:40~12:00)

9:40-10:00 座長 有嶋和義 (麻布大)

A-1 Sox17 ノックアウトマウスの内胚葉形成異常 ○金井正美¹、金井克晃¹、矢崎和盛²、九郎丸正道¹、林 良博¹ (¹東大・獣医、²(財)東京都臨床医学研究所)

A-2 ニューロトロフィンによるマウス歯胚発生の制御 ○中牟田信明、小林 繁 (九歯大・口解 1)

10:00-10:20 座長 福田勝洋 (名古屋大)

A-3 乳腺上皮細胞の機能的相異と Subpopulation の存在の可能性
○野地智法、山口高弘 (東北大院・農・機能形態)

A-4 イヌの『肩関節筋』に関する一考察 本戸洋介¹、○武藤頭一郎¹、谷口和美¹、吉岡一機¹、長竿 淳¹、魚住賢司¹、大谷浩二²、大野秀樹³、中島尚志¹ (¹北里大獣医畜産学部、²末松犬猫病院、³大野犬猫病院、⁴下館動物病院)

10:20-10:40 座長 西中川 駿 (鹿児島大)

A-5 ウマ浅指屈筋腱の加齢性変化 II: コラーゲン細線維と腱細胞
○山本悦子、植田弘美、竹花一成 (酪農大・獣医解剖)

A-6 ウマ屈腱炎に関する分子病理学的解析 [3]培養腱細胞における 12 型および 14 型コラーゲン遺伝子の発現について
○笠嶋快周¹、新井克彦²、海老原晃²、桑野睦敏¹、吉原豊彦¹ (¹JRA 総研、²東京農工大・農・硬蛋白研)

10:40-11:00 座長 林 良博 (東大)

A-7 ハトの筋胃には本当に消化管内分泌細胞は存在しないか？
植村昌子、佐々木基樹、北村延夫、○山田純三 (帯畜大・家畜解剖)

A-8 グアナコの胃におけるアスパルティック酵素群の発現分布
○大浦純子¹、尼崎肇¹、アンドレン アンダース²、マルチェロ ギージ³
(¹日獣大・獣医、²ウブサラ大、³NCPBA 大)

11:00-11:20 座長 村上隆之(宮崎大)

A-9 牛の胆嚢及び胆嚢管の肉眼解剖学的特徴 ○安食 隆¹、孫 成奉²、権田辰夫³、萬場光一⁴ (¹島根家衛研、²慶北家衛研、³島根医大、⁴山口大・連合大学院)

A-10 The ephrin-A1 ligand and its receptor, EphA2, are expressed during tumor neovascularization ○小川和重¹、塚本康浩¹、佐々木文彦¹、パスクアーレ エレーナ² (¹大阪府立大・獣医、²The Burnham Institute)

11:20-11:40 座長 萬場光一(山口大)

A-11 両生類および爬虫類におけるリアノジン受容体の局在
○谷口和美¹、坂口康祐¹、中郡昭人²、吉岡一機¹、長竿 淳¹、武藤 顕一郎¹ (¹北里大・獣医解剖、²北里大・獣医薬理)

A-12 ブタ脾臓の微細血管系の陰性荷電について
○植田弘美、山本悦子、竹花一成 (酪農大・獣医解剖)

11:40-12:00 座長 九郎丸正道(東大)

A-13 リュウキュウイノシシの遺伝的起源 ○渡部琢磨¹、石黒直隆²、堀内基広²、品川森一² (¹岩手大・連合農学、²帯畜大)

A-14 演題取消

4月3日(火)第IX会場 演題番号 A-15-28 (9:00~12:00)

9:00-9:20 座長 武藤 顕一郎(北里大)

A-15 マウス腎臓のS2 segmentにおける系統差と雌雄差 ○矢吹 映¹、鈴木秀作²、松元光春¹、西中川駿¹ (¹鹿児島大・家畜解剖、²医学部附属動物実験施設)

A-16 遺伝性腎疾患(ICGN)マウスにおけるエリスロポイエチン産生
○山口美鈴¹、眞鍋 昇¹、山田-内尾こずえ¹、明石直嗣¹、後藤康文¹、中村賢介²、永尾雅哉²、小倉淳郎³、山本美江³、宮本 元¹ (¹京大・院・農・生体機構、²京大・院・生命科学、³国立感染症・獣医科学)

9:20-9:40 座長 浅利昌男(麻布大)

A-17 遺伝性腎疾患(ICGN)マウス腎における細胞外マトリックスの細胞外修飾:リシルオキシダゼの発現 ○後藤康文¹、山口美鈴¹、眞鍋 昇¹、山田-内尾こずえ¹、明石直嗣¹、小倉淳郎²、山本美江²、宮本 元¹ (¹京大・院・農・生体機構、²国立感染症・獣医科学)

A-18 遺伝性腎炎疾患(ICGN)マウス腎における一酸化窒素合成酵素の発現 ○明石直嗣¹、山口美鈴¹、眞鍋 昇¹、山田-内尾こずえ¹、木曾美奈子¹、後藤康文¹、小倉淳郎²、山本美江²、宮本 元¹ (¹京大・院・農・生体機構、²国立感染症・獣医科学)

9:40-10:00 座長 眞鍋 昇(京大)

A-19 胎生期の生殖細胞、体細胞の性分化におけるメチル化機構の解析 ○水上拓郎、金井克晃、藤澤正彦、九郎丸正道、林 良博(東大・獣医解剖)

A-20 Effect of Bisphenol-A on the Sertoli cell culture of prepubertal male Wistar rats ○Awal Mohammad Abdul、九郎丸正道、水上拓郎、金井克晃、林 良博(東大・獣医解剖)

10:00-10:20 座長 月瀬 東(日大)

A-21 ゴールデンハムスターの初期精子発生と非繁殖期からの精子発生再開との間における精巣組織の形態比較と糖鎖解析 ○中村龍介、水上拓郎、藤澤正彦、金井克晃、九郎丸正道、林 良博(東大・獣医解剖)

A-22 鯨類の腹腔内精巣におけるHSP90family(Hsp84、Hsp86)の発現パターンについて ○地曳会美、山際大志郎、金井克晃、九郎丸正道、林 良博(東大・獣医解剖)

10:20-10:40 座長 木曾康郎(山口大)

A-23 水牛の精巣におけるCa結合タンパク質の免疫組織化学的分布
○クルザナ・マリア・ベリヤ¹、ブディピトジョ・テグ¹、松崎重範²、デオカンボ・グレイス³、佐々木基樹¹、北村延夫¹、山田純三¹ (¹帯畜大・家畜解剖、²北海道家畜改良事業団、³フィリピン大)

A-24 ブタ卵巣顆粒層細胞におけるミトコンドリアを介した細胞死制御 ○松井俊勝、眞鍋 昇、中山瑞穂、西原 晋、井上直子、宮本 元(京大・院・農・生体機構)

10:40-11:00 座長 山田純三(帯畜大)

A-25 ブタ退行卵巣の顆粒層細胞におけるFas-FasL系を介したアポ

トーシス制御について ○井上直子¹、眞鍋 昇¹、西原 晋¹、和田聡子¹、中山瑞穂¹、宮本 元¹ (¹京大・院・農・生体機構)

A-26 老化促進マウス(SAM)黄体における免疫系細胞の局在 ○小松 紘司¹、木曾美奈子¹、眞鍋 昇¹、西原 晋¹、宮本 元¹ (¹京大・院・農・生体機構)

11:00-11:20 座長 橋本善春(北大)

A-27 老化促進マウスの退行異常黄体におけるアポトーシスシグナル伝達経路の解析 ○木曾美奈子、小松 紘司、眞鍋 昇、宮本 元(京大・院・農・生体機構)

A-28 発情周期にともなうウシ子宮におけるガストリン放出ペプチドの免疫組織化学的分布の変化 ○ブディピトジョ・テグ¹、松崎重範²、クルザナ・マリア・ベリヤ¹、佐々木基樹¹、北村延夫¹、山田純三¹ (¹帯畜大・家畜解剖、²北海道家畜改良事業団)

4月4日(水)第IX会場 演題番号 A-29-41 (9:20~11:30)

9:20-9:50 座長 佐々木文彦(大阪府大)

A-29 ラット神経堤細胞の副腎髄質への移動に関する三次元的解析
○柳井涼子、山本雅子、有嶋和義、江口保暢(麻布大・獣医)

A-30 ヒツジにおける成長ホルモン放出促進ペプチド、Ghrelinの局在 ○星 信彦¹、有田恵美子¹、橋本 統¹、児島将康²、武藤顕一郎¹、谷口和美¹、吉岡一機¹、黒瀬陽平³、千秋達道³、寒川賢治²、長谷川喜久¹ (¹北里大・獣医、²国立循環器センター、³北里大・動物資源科学)

A-31 in vitroにおいてBetacellulinが胎子臍島B細胞に及ぼす影響
○保田昌彦、山本雅子、有嶋和義、江口保暢(麻布大・獣医)

9:50-10:10 座長 竹花一成(酪農大)

A-32 p27^{-/-}マウスの副腎皮質 ○田中 慎、増田芳子(長寿研)

A-33 ニワトリにおいて制限給餌が腸管L細胞に及ぼす影響

○平松浩二、山崎亜沙、大島浩二(信州大・農)

10:10-10:30 座長 杉田昭栄(宇都宮大)

A-34 鶏における頸、腰膨大部脊髄神経節由来一次求心線維の分布

○上原正人、今川智敬、加納敦子(鳥取大・獣医)

A-35 ラット歯状回顆粒細胞にみられる多構造封入体について

○前田誠司¹、川端慶吾¹、高長明律¹、田中宏一¹、伊東久男²、早川 徹¹、関 真¹ (¹兵庫医大・第一解剖、²兵庫医大・実験動物施設)

10:30-10:50 座長 山野秀二(日獣大)

A-36 片眼視野遮断ラットの視覚ニューロンの可塑的变化とアポトーシスの関係 ○川端慶吾¹、前田誠司¹、高長明律¹、田中宏一¹、伊東 久男²、早川 徹¹、関 真¹ (¹兵庫医大・第一解剖、²兵庫医大・実験動物施設)

A-37 ヤク星状神経節内神経ペプチドの検索 ○那須哲夫¹、末石篤司¹、牧村 進¹、園田立信¹、武田 博¹、末吉益雄¹、宋 仁徳¹、李 偉¹、森本正敏² (¹宮崎大・農、²佐賀医大)

10:50-11:10 座長 上原正人(鳥取大)

A-38 ウマ網膜の内顆粒層における数量的研究 ○郭 曉麗、青山真人、杉田昭栄(宇都宮大・農・動物機能形態)

A-39 ミシシッピ・アカミミガメの嗅球に関するレクチン組織化学的研究 ○原田早苗、加納 聖、谷口和之(岩手大・獣医)

11:10-11:30 座長 谷口和之(岩手大)

A-40 神経切断後のラット鋤鼻系の長期回復 ○松岡淳子¹、松岡勝人²、市川眞澄¹ (¹都神経研・発生形態、²新潟大・医)

A-41 The onset of bitter and sweet taste transduction as revealed by α -gustducin immunohistochemistry in the developing lingual and palatal epithelium of rat ○エルジャラビー・アシュラフ、上田甲寅、脇坂 聡(大阪大・歯・解剖)

* ポスター発表 * 4月2日(水)示説会場

演題番号 A-P1-3 (13:00~14:00)

A-P1 ブタM細胞の性状と機能発現 ○木戸丈友、大和田修一、山口高弘(東北大・院・農・機能形態)

A-P2 ラットACTH細胞の機能的多様性:○佐藤貴弘、堀口英司、渡辺啓介、山口高弘(東北大・院・農・機能形態)

A-P3 新奇環境に対するラット脳内のc-fos様免疫陽性細胞発現にアンドロジェンが及ぼす影響:○佐郡和人、青山真人、杉田昭栄(宇都宮大・農・動物機能形態)

ら下記へ1年間の予定で留学されます。

c/o Dr. Gary Beauchamp, Monell Chemical Senses Center, 3500 Market Street, Philadelphia, Pennsylvania 19104, USA

☆岩手大学農学部家畜解剖学教室の小川和重助教授は1998年7月11日～2000年7月10日の期間The Burnham Institute (The Burnham Institute, 10901 N. Torrey Pines Rd., La Jolla CA 92037 USA)へ留学され、腫瘍の血管新生について研究されて帰国されましたが、2000年11月1日付けで大阪府立大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻(獣医解剖学講座)の助教授に転任されました。

☆宮崎大学家畜解剖学教室助手として保田昌宏氏が着任されました。

【獣医解剖・組織・発生学用語発刊のご案内】

予てより準備がすすめられておりました、和英・英和索引付きの「獣医解剖・組織・発生学用語」(B6変形版、上製本、約1760頁)が渡辺 徹、谷口和之、木曾康郎先生のご尽力と牧田 登之先生の監修によりこの3月末に日本獣医解剖学会編として学窓社から刊行されました。

これまでの用語集はラテン語の学名と和名の学名だけのものでしたので英語の論文作成などに不便を感じておりましたが、今回の用語集には英名も記載され、その不便さが解消されましたので、これから解剖学さらには獣医学を学ぼうとする学生さんや会員の皆さんにも大いに役立つものと確信いたします。皆様の学生諸君への推薦と活用をよろしく願います。

定価は12,600円ですが、教科書提供価格は8,450円で提供されます。また、本学会会員には特別頒布価格として教科書提供価格で提供いただくことになっておりますので、直接出版社へご注文ください(送料は受取者負担です)。

【獣医組織学編集委員会からのお詫びと報告】

獣医組織学第二版を4月初めに発刊すべく鋭意努力してまいりましたが、編集委員長の方力不足から発刊が4月下旬にずれ込みまして誠に申し訳なくお詫び申し上げます。光学顕微鏡写真のデジタルカラー化と1万円を切る低廉化という相矛盾する命題に挑戦し、何とか達成の見通しが立ちました。発刊の際には教育にご活用いただきますようお願い申し上げます。執筆者各位に感謝します。

お詫びとお願ひまで。

第2版 編集委員長 山田純三

◇第131回 日本獣医学会のご案内◇

岩手大学 谷口和之

秋の獣医学会は10月6日～8日にかけて行われますが、現時点では、
10月5日(金) 午前：国公立・私立協議会、午後：全国代表者協議会
10月6日(土) 午前：プレナリー・セッション、 昼：評議員会、
午後：学会賞・奨励賞選考委員会、J VMS 編集委員会
10月7日(日) 午前：各種ワークショップ、昼：総会、
午後：各種ワークショップ
10月8日(月) 午前：各種集会、 午後：病院運営協議会
というようところが決まっております。会場の関係で、10月6日はこれ以外のもも午前、午後に入りますので、いくつかが同時進行になります。また今回は、個々の研究発表は全てポスターで行う、ということになっております。

解剖関係の集会は、一応、以下のように考えています。

10月7日(日) 午前：解剖学理事会(11:00～12:00ころまで)
午後：解剖学シンポジウム「生殖科学の最前線」、
獣医解剖学会総会
10月8日(月) 午前：解剖学サテライトフォーラム、
午後：懇親会へ出発、八幡平ハイツアー泊
多くの会員のご参加を期待しております。

◆ 編集後記 ◆

21世紀の最初の News Letter No. 17 を、やっとの思いでお届けします。いつも発行が学会直前になり申し訳ありません。皆さんのお役に立てるように内容の充実を図りたいのですがなかなか原稿が集まらず苦労しています。このニュースレターは本学会のホームページにも掲載します。日本獣医解剖学会のホームページアドレスは <http://jvm2.vma.u-tokyo.ac.jp/java/> です。ご利用ください。住所変更などがありましたら、ホームページかニュースレター編集担当の山田(e-mail: jyamada@obihiro.ac.jp, FAX: 0155-49-5354)へお知らせください。

諸々の環境条件が厳しくなっています。我々自身が現在置かれている環境を十分理解し、自身の意識改革をしなければならぬ点多々あるかと思えます。独善ではなく周囲との調和を考えながらじっくり取り組みましょう。

まさにストレスフルな世界です。会員の皆様！諸々のストレスをうまく発散させて下さい。ご健康とご活躍を祈念します。 感謝！ (編集子)



学窓社 新刊案内

株式会社 学窓社, 113-0024 東京都文京区西片2-16-28, TEL 03-3818-8701, FAX 03-3818-8704

ご注文および新刊情報は <http://www.gakusosha.co.jp/> もご利用下さい



ひとりで学べる獣医学英語

B5変型判/368頁 鷲巢 誠 監訳 定価15,750円(送料380円)



明解 哺乳類の生理学

B5判/415頁 鈴木勝士・徳力幹彦 監訳 定価5,250円(送料380円)



哺乳類の生殖生物学

B5変型判/320頁 高橋迪雄 監修 定価5,250円(送料380円)



家禽解剖カラーアトラス

A4変型判/130頁 牧田登之 監訳 定価15,750円(送料380円)



コンパニオンアニマルの死

A5変型判/204頁 永田正 訳 定価5,250円(送料310円)



獣医解剖・組織・発生学用語

B6変型判/1656頁 日本獣医解剖学会 編 定価12,600円(送料450円)



獣医組織学 第二版

A4変型判/328頁/総カラー、写真図表多数 日本獣医解剖学会 編
定価9,975円 4月下旬発刊予定